



大山から昇る朝陽が日に日に輝きを増し、春の訪れを感じられる季節となりました。3月1日、本校の所定の教育課程を終了した165名に卒業証書を授与いたしました。式辞の一部を紹介します。

## 自分が源泉となり幸福であれ！

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは入学以来、コロナ禍に対応した高校生活を過ごしてきました。様々な制約を受け、不幸にも思われましたが、このような状況だからこそ、気づけたことがありました。それは「幸福」とは何かということです。

これまでは難関大学への合格や有名企業への就職、昇進、そして高い収入を得ることが幸福であると、世の中全体が考えてきました。ところが、バブルの崩壊によって、若者を中心にこの幸福感に疑問を感じ始めました。今まで「幸福」と思ってきたことは「成功」であって「幸福」ではないということに気づいたのでした。

コロナ禍の社会の変化の中では、この気づきが若者に限らず世の中全体で共有されるようになりました。そして、幸福であるために、自らの価値観を見直し、これまでの枠にとらわれない働き方と生活スタイルを実践する動きが起きました。

このような新しい時代に旅立つみなさんに、これからの社会を生き抜く上で大切なことの中から一つだけお伝えしたいと思います。それは、「自分が源泉」ということです。つまり、自分から全ての物事が始まっている、ということです。

新しい生活では、初めての経験や困難なことへの挑戦などうまくいかないことや失敗することもあるでしょう。ここで重要になるのが受け止め方です。うまくいかないのは人のせい。うまくいかないのは環境のせい。と、外に原因を求めれば気持ちは楽になるかもしれませんが、解決も進歩もありません。

他人も環境も自分が思うようには変わってくれません。変えることができるのはみなさん一人ひとりの気持ちと行動です。結果は様々な条件が重なり合って生じるものです。一つでも条件が異なれば別の結果になっていたかもしれません。例えば、目的地は同じでも、目の前の分かれ道を右に進むか、左に進むかで、結果が異なる可能性もあります。

何事においても、自分には関係のないことと思わずに、自分が何らかの係わりを持っている、あるいは影響を及ぼしているという立場で結果と向き合い、結果を受けとめてください。

すべての結果への影響力が自分にあるということは、たとえ、それが悪い結果であったとしても自分で創った結果は自分で創り直すことができるのです。

そして、「自分が源泉」という考え方を実践する上で大切なのは、言葉のあり方です。無意識のうちに使っている言葉の中に、私たちの意識のあり方が明確に現れています。自分が無意識に使っている言葉を注意深く観察してみると、責任を他に求める言葉を使っていることがあります。そんな言葉を使っていることに気づいたら、すぐに「自分が源泉」の視点に立ち、言葉を置き換えてみてください。きっと、みなさんを主体的な人生の歩みへと導いてくれることでしょう。

自分一人だけが幸福であることはあり得ません。周囲の人々も幸福であってこそ、自分自身も幸福でいられるのです。自分が源泉となり、周囲への関わりを持ち、共に幸福であってください。

創立100周年の記念すべき年に卒業する皆さんの洋々たる前途に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

校長 松川 明義

